

# 新入生ガイダンス学部長挨拶

---

人文社会科学部長 佐川泰弘

茨城大学人文社会科学部第一期生の皆さん、入学おめでとうございます。新学部、新学科になるということで、どういう学部になるのか、どういう入試になるのか情報が乏しく、不安要素も多かったかと思いますが、難関をくぐり抜けた大変優秀な皆さんをここに迎えることができ、喜ばしく思っております。

ここにいるすべての皆さんに、「同じ釜の飯を食う」仲間だという意識を今日から持っていただきたいと思います。

私からは、皆さんへの期待を4つ述べておきます。

①茨大生は、「優秀だがおとなしい」と見られているところがあります。みなさんには、人と違うことを考えたり言ったりすることに、まだ抵抗があるかもしれません。しかし、新たな発想を語り、積極的に行動することは何も恥ずかしいことではありません。大学入学を機に、どんどん前に出ていく人になってもらいたい。このことを第一に期待します。

②受験が終わり、皆さんは「自由」になりました。大学での勉強や授業以外の時間の使い方、卒業後の職業まで、選択肢は大いに広がっています。留学もしたい、インターンシップも、地域活動も、サークル活動も、アルバイトともと、やりたいことは盛りだくさんだと思います。その中で、自分のプランを自分で作っていかなければなりません。これは自体

大変です。あれもこれもと考えるでしょうが、時間にも限りがあります。四年間はあっという間に終わってしまいます。これだけは身に付けておこうと思うことを決め、目的意識を持って、どの時期に何をやろうかを考え、今日から活動を開始してほしい。これが二点目です。

③当学部での一教員あたりの学生数は、少人数教育を謳う私大と比べても半分です。一学年約370名の学生に対し、90名近い専門教員がおります。かつ、非常に身近に教員と接することができます。これが国立大学で学ぶ最大の利点です。大規模な授業でも、教員と学生が話しながら進められます。みなさんは、こういう有利な環境にあるわけですから、「その道のプロ」である教員とのコミュニケーションを楽しんで欲しい。これが三点目です。

④現在、「地方創生」が国の政策の柱の一つとなっていますが、茨城大学も「地域」を意識した教育や研究に一丸となって取り組もうとしています。みなさんは茨城「地域」にこれから住み、将来もどこかの「地域」で働き、暮らします。そうした地域の現場で何が起きているのか、大人たちは課題に対して何を考え取り組んできたのか、その取り組みのどこに問題があったのか、さらにこれからどうしたらよいのかを考えながら学び、卒業していつてもらいたいと思います。

加えて、どの学科でどのメジャーを専門としようとも、教室での講義という形での学びだけでなく、学外での授業がどんどん増えています。さらに、長短期の留学や国内外でのインターンシップにも力を入れています。最近では2割近い学生が、在学中に何らかの形で海外生活を体験しています。こうした外に出る授業や制度を是非活用してもらいたい。これが四点目です。

大学生は「大人」です。選挙での投票もできます。とはいえ成長途上の未成年でもあります。何か心配事があれば遠慮なく学務係、なんでも相談室、担任教員等へ相談をしてください。私自身も皆さんと話をする場を持ちたいと思います。また、隙を作らず、防災・防犯も意識してください。

とにかく、みなさんにはいろいろな可能性が広がっています。一緒に面白いことをたくさんやっていきましょう。

(平成 29 年 4 月 4 日)